

【施設状況】

グループ名称	地域活動支援センターこぶし								
指定管理者名	社会福祉法人長野県社会福祉事業団					法人番号	1100005001692		
所管課	主	102000	障害福祉課	副					
構成施設	5695	地域活動支援センターこぶし							
施設分類	05	保健福祉・医療型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制
施設概要	作業室、事務室、トイレ								
施設設置目的	障害のある人が地域において自立した日常生活、社会生活を営むことができるよう、施設において創作活動、生活活動の機会の提供を行うとともに、社会との交流の促進を図ることを目的とする。								
基本方針等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者又は障害児の保護者の意思及び人格を尊重して、常に利用者等の立場に立ったサービスの提供に努める。</li> <li>・地域及び家庭との結び付きを重視した運営を行い、市、障害福祉サービス事業者を行う者、その他の保健医療サービス又は福祉サービスを提供する者等との連携に努めるとともに、指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供していく。</li> </ul>								
主な実施事業	・地域活動支援センター事業								

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない</li> <li>・管理運営の一部において、市の指導が必要</li> </ul>
1 (悪い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定、事業計画が全て実施されない</li> <li>・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要</li> <li>・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない</li> </ul>

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	社会福祉法人長野県社会福祉事業団			指定回数	2 回	
指定期間	平成29年4月1日	～	令和4年3月31日	5年	管理運営開始日	平成24年4月1日
指定管理者の健全性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、その内容等を記入)					3

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)		利用区分等	単位	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	対前年比	評価
		利用者数	人/年	3,035	3,413	3,147	2,186	69%	3
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
								#DIV/0!	
		(特記事項) 利用定員 15 人 登録人数(R2.3.31) 14 人 *利用者数(人/日 11人)							
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案		追加事業、未実施事業及び未実施の理由					
	市指定事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援法第77条第1項第9号に規定する地域活動支援センターの実施に関する業務</li> <li>・施設及び設備の維持管理に関する業務</li> </ul>							
	自主事業			<p>前期は前年度に続き、障害特性や個々の体力等を考慮した少人数グループでの活動に重点を置いた。後期は被災により活動場所を水内荘に変更、活動そのものも大幅な縮小となった。新たな取組である石ころアートは地区の文化祭等で発表予定だったが、被災の影響でイベントそのものが中止。活動場所が狭くなったこと、職員1名が被災離職したことにより活動内容も縮小・中断せざるを得なかった。</p>					
サービス維持・向上の取組み (広報等)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・市包括支援センター支援専門員、歩楽里の相談支援専門員により、個々のケースについて日常的な支援方法を話し合っている(定期でなく必要に応じて機会を設けている)。</li> <li>・広報紙「こぶしたより」を発行し関係各所へ配布。被災後は、「長野ブロック便り」で復興状況等について報告した。</li> <li>・前期:雨天や降雪時の送迎代行、後期(被災後):GH利用者の一斉送迎</li> </ul>							

3 利用者評価

区分	内容		評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	その他	4
	(2) 調査、会議等の内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳を活用し、日々の要望や意見(考え・気持ち含む)を把握している。</li> <li>・後期に満足度調査実施予定だったが、被災により利用者が通所ににくい状況になってしまったため実施できなかった。</li> </ul>		
	(3) 調査、会議等の結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・食事会に行きたい、カラオケボックスで歌いたい、ドライブに行きたい、早く元のこぶしに戻りたい等の要望があった。</li> </ul>		
利用者からの要望・苦情等	(1) 良好とする評価 前期に実施できた活動については、利用者及び保護者からの評価は概ね良好であった。被災後には、特に一人一人の様子を細かく観察したり話をする時間を長く取るなどした結果、保護者から良好な評価を得た。 【意見】 ・石ころアートについて、石拾いに河原に行ったのが楽しかった、石に絵を描くのが面白かった、思ったよりも上手にできたので嬉しかった ・外出(カラオケ、食事会など)が楽しかった ・毎日楽しい ・ブラインドが直ってよかった ・連絡帳で様子がよく分かり有難い(保護者) ・誕生日会で祝ってもらい嬉しかった 等		4
	(2) 苦情・改善等の要望事項 ①被災後、「仮活動場所に水内荘は遠いので通えない」とか「慣れない場所で不安であり、通えない」という意見が出された。 ②自分だけ血圧を測ってもらえないので、疎外感を感じる。		
	≪対応措置≫ ①仮活動場所が遠くて通えない方には、近隣の事業所への移行を勧めた。(同法人事業所の小春日和へ1名、八雲日和へ2名移行した)また、仮活動場所が慣れないところで不安であるという利用者は自宅待機となったが、定期的に連絡し、状況把握に努めた。 ②医師の指示があった人だけが測っていることを説明し、それでも測ってほしいとの要望があったので、その後は毎日血圧測定を実施した。		

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和元年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和元年度決算		平成30年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
収入	利用料金		利用料金		使用料		使用料		歳入
	指定管理料	8,583,000	指定管理料	8,583,000	雑(納付金)		雑(納付金)		
	委託料		委託料		行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料		
	販売収入等	500,000	販売収入等	491,123	貸付料		貸付料		
	その他収入	38,000	その他収入	27,026	その他		その他		
	計	9,121,000	計	9,101,149	計	0	計	0	
支出	人件費	5,514,000	人件費	5,512,284	指定管理料	8,583,000	指定管理料	8,583,000	歳出
	設備管理費	217,000	設備管理費	215,540	委託料		委託料		
	備品購入費		備品購入費		需用費		需用費		
	修繕費	384,000	修繕費	383,984	役務費		役務費		
	光熱水費	49,000	光熱水費	48,467	使用料・賃借料		使用料・賃借料		
	事業費	509,000	事業費	498,769	修繕費	265,140	修繕費		
	事務経費	662,000	事務経費	657,227	工事請負費		工事請負費		
	本社経費		本社経費		備品購入費		備品購入費		
	その他	6,000	その他	6,000	その他		その他		
	計	7,341,000	計	7,322,271	電気料金	112,550	電気料金	358,077	
自主事業	収入		収入						
	支出		支出						
	自主事業損益	0	自主事業損益	0					
損益		1,780,000		1,778,878	差引	-8,960,690		-8,941,077	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和元年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)								75.3%	
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由									

5 管理運営全般 ※すべて  で、「3」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 所長(非常勤)1人(1)、 経理担当(非常勤)1人(0)、 指導員(常勤)2人(2)・(非常勤)1(0)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
平等利用	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		
経理	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		
施設・備品の維持管理	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		
セルフモニタリング等	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか	<input checked="" type="checkbox"/>	4
	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか	<input checked="" type="checkbox"/>	

6 危機管理体制

※ すべて☑で、「3」。1カ所でも空欄の場合は「1」。「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

No. 21

区分	確認内容	チェック欄	評価	
危機管理体制	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☑	3	
	2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか			
	3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか			
	個人情報保護 1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☑		
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか		☑
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		☑
緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☑		
	2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか			

7 地域連携

地域連携	評価	
地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。	3	
協定内容・指定管理者提案		追加された内容、未実施の内容及びその理由
・利用者の弁当は市内障害者就労施設、おやつや事務用品等の購入物品は市内業者にて調達		(追加) 中学校生徒会との交流会(被災前に実施) (未実施) 地域の各種行事への参加は、被災により中止

【総合評価】

評価項目	評価	得点	総合評価
指定管理者の健全性	3	6	<p>総合評価</p> <p>指定管理者の健全性</p> <p>施設の有効活用</p> <p>利用者評価</p> <p>事業収支</p> <p>管理運営全般</p> <p>危機管理体制</p> <p>地域連携</p> <p>--- 基準値</p>
施設の有効活用	3	6	
利用者評価	4	16	
事業収支	3	6	
管理運営全般	4	16	
危機管理体制	3	12	
地域連携	3	6	
合計得点		68	
評価理由	<p>施設の目的及び基本方針に適合した運営を行っており、苦情や事故もなく、利用者に対して日々の考察が実施されており、利用者の立場に立った安定したサービスが提供されている。</p> <p>令和元年台風第19号により「こぶし」が所在していた複合施設が被災したため、同法人所管の「水内荘」内に地域活動支援センターを再開したことに伴い、通所が困難な利用者も出たが、送迎を実施したり、自宅待機となった利用者には、定期的に連絡することにより状況把握に努める等の措置を実施している。施設利用者に配慮したきめ細かな措置により、結果として利用者、保護者等から良好な評価を得たとしていることから、3 利用者評価を「4」とした。</p> <p>上記台風による施設の被災は、不測の事態であり、不可抗力といえるが、指定管理法人は、市との協議を重ね、同法人所管施設内での地域活動支援センターの再開を決定し、施設利用者に十分配慮した必要な措置を講じてきたといえることから、5 管理運営全般を「4」とした。</p>		
取組み・改善案等(施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)
次年度の目標・取組み等(施設所管課)	同法人運営のグループ施設からの利用者が多く、新たな利用者の掘り起こしが課題であり、利用定員を満たすために、引き続き利用増に向けた取り組みを継続的に実施する。		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

・4～9月…メンバーが変わらない中、高齢化・重度化が一層進み販売活動は難しくなったため見合わせた。その分「安全・近距離・短時間」を心掛けたミニ外出の回数を増やして利用者の満足度向上に努めた。また、創作活動では新たに「石ころアート」に挑戦。石拾いで自然に触れたり、協力して石を綺麗に洗う等、絵付けまでの準備段階から意欲的に取り組む姿が見られた。石拾いに行くのが難しい利用者については、出かけている利用者の分もおやつを作っておき、帰ってきたら一緒にお茶が飲めるよう準備して待つこととし、「おやつ作り」を通して石ころ拾いには行けなくても自己肯定感を持てることを狙いとした。絵付けでは皆が活き活きと取り組む姿が見られ、新たな才能の発見もあり、有意義な取り組みとなった。

・10月以降…台風被害により建物が使用不可能となり、約2週間閉鎖。仮活動場所として別の場所(水内荘)での再開となったため、結果的に通所困難になった在宅利用者に対しては通所先の変更を提案し、町内の他事業所の利用に繋げた。様々なイベントや行事が中止となり環境も大きく変わったため、先ずは精神安定を図ることを最優先とした。小さな変化も見逃さないよう利用者一人一人の様子に目を配りながら支援した結果、不調を訴える利用者はいなかった。また、自宅待機を要請した利用者には電話にて定期的に状態確認し、ほぼ全ての利用者や保護者から高評価を得た。状況が落ち着いてからカラオケや食事会などの小規模な外出を実施し、大変好評であった。

② 業務の効率化に対する取組み

・4～9月…職員の役割分担を明確にするとともに、日々の報連相を徹底して担当以外の仕事内容も把握できるよう努めた。

・10月以降…罹災した職員の退職等で職員が不足する場面が多かったが、随時水内荘に応援を要請して支援に当たった。

③ その他

・4～9月…利用者の高齢化は加速しており、これまで日常問題なかった行動に対しても改めて事故防止対策が必要となってきた。今期も引き続きエレベーターの乗降支援を実施。また防災訓練では、利用者の避難に重点を置いた訓練とした。

・10月以降…今回の経験から水害対策に重点を置いた防災訓練の必要性を強く感じた。入居していた被災建物(かがやきひろば)復旧後に連携して防災対策の見直しを図りたい。

・被災により、公用車2台が水没・廃車となったが1台は助成元の日本財団より再度被災機器代替整備事業で助成を受けることが出来たので購入した。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

・被災後は、他事業所への移行などで利用者が減少したため、かがやきひろば復旧後は利用者増に取り組みたい。

・同一法人内で被災した他事業所が6月末頃を目途に復旧する見通しの中、当センターの再開について明確に示せなかったため利用者や保護者に不安を与えてしまった。

・サービス提供において種々の工夫は当然ながら、より充実した事業を考えた時には事業に充当する安定した予算が必要となる。効率的な予算執行を進めてはいるが、十分とは言えない状態である。

(3) 総合評価

評価基準

【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり  
 【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者  
自己総合評価

C

① 評価理由

前期は概ね計画や目標通りに事業を実施できたが、後期は台風被害に加え、新型コロナウイルスの流行により大幅な計画の変更や事業の縮小を強いられた。ただし、被災後の利用者支援については、被災した職員が退職するなどがあっても拘らず、丁寧に利用者支援に取り組み、自宅待機を選択した利用者のフォローを行うなどしており評価できる。

② 次年度以降の取組み

新型コロナウイルスの流行が終息しても今までの生活様式を大きく変えねばならない社会になることを鑑み、それに即した事業を展開していく必要がある。当面は、利用者・職員及び関係者の感染防止の観点から活動を計画する。